時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價遞送料は左の如し

一號　貳錢五厘○一ヶ月　前金五拾錢○三ヶ月　前金壹圓四拾五錢○六ヶ月　前金貳圓八拾五錢○一ヶ年　前金五圓六拾錢○月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

時事新報遞送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一ヶ月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一ヶ月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一ヶ月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一ヶ月　金六拾五錢

五　露領浦潮斯德、清國諸港　一ヶ月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

	一日以上	六日以上	七日以上
一行五號活字廿四字詰	一日金		
一行　ヨ	付十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず猶り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依囑せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

御巡幸の屢ばならんことを祈る

王室の御威德を國中に遍からしむるの一事は我輩の兼てより希望する所にして今更ら云ふまでもなきみとなれども時々隨處の御巡幸を仰出され人民をして親しく聖德を仰き奉らしむるが如き最も肝要なる可しと信ずるなり在昔王室の盛時に於ては軍事もしくは政事の爲めに天皇親から外に出でさせらるゝは申す迄もなく或は田獵の爲め或は遊樂の爲めに時々の御巡狩は平常の事にして國中の人民は親しく龍顏を拜してまゝ聖德の雖有きを感じ奉るの常なりしに中古支那の制度文物を輸入してより社會萬般の仕組所謂東洋流の虛文虛飾に流れて王室の御儀式なぞは特に鄭重尊大を尙ぶの風となり時々の御出入等も以前の如く簡易なるを得ず隨て御巡幸の事も全く儀式的のものとなりしのみならず其後藤原氏の專權に引續き武人政治の世と爲りては天皇は恰も深宮の中に蟄居あらせらるゝの御姿にして御外出等の事は全く止み隨て國中の人民をして親しく聖德を拜し奉るの機會だに得せしめざりしかろ良れ多き次第なれ西洋諸國の帝王の如きは平生の起居動作甚だ自由にして國中の巡幸は云ふまでもなく或は外國の風を觀るが爲め或は避暑遊樂等の爲めに旅行を試みらるゝみと其常にして行裝の如きも極めて手輕なるが故に人民は之に接し之に親しむの機會多くして知らず〳〵の間に王家の德をして一般に遍からしむるの効能少なからざるが如し即ち彼の君民の間甚だ懸隔せずして然かも一種藹然たる感情の存するものは上下共に自から勉むるに非ずして其相近き相親しむの間に發したる自然の結果なりと云ふ可し我國の事態は自から別にして固より日を同ふして語る可らずと雖も支那朝鮮等所謂東洋諸國の帝王が常に深宮の中に在りて外に出づるみとなく稀れに偶ま〳〵出づるときは威儀堂々傍を拂ふて人民をして屏息せしむるが如き決して我國固有の習慣に非ず或は東洋に於ては君主の外出は人民に難儀を掛くるものなりとて却て他を憐れむの情よりして之を謹しむなぞの談もなきに非ざれども畢竟ろの事大仰に過ぎて金を費し人を勞するみと非常なるが爲めのみ虛禮虛飾の弊と云はざるを得ず我日本は王政維新以來百事東洋の弊習を脫して西洋流の簡易を旨とするに至りし中にも王室の御擧動の如き或は親から三軍を統率して風雨の中に玉體を勞せられ或は時々四方に巡幸して民間の疾苦を訪はせらるゝ等、ろの勇壯活潑の御有樣は、王朝の昔に比して優るみとあるも劣るみとなし吾々臣民たるもの〻只管感服し奉る所なれども其事たる何れも公の御職務に止まりて時々御慰みかたゝの御巡幸稀れなるは我輩の私情に於て遺憾なきを得ず例へば山間海邊の地に離宮を設けられ夏季盛暑の間に御避暑の行幸あらせらるゝなぞは恐れ多きみとながら第一玉體の御保養の爲めにも然る可きみとにして我輩の竊に希望に堪へざる所なり箱根の離宮の如き設置以來如何なる次第にや行幸の御沙汰を聞かず又北海道の離宮も土地は既に定まりたれども未だ建築の運び に至らざるよし是等の離宮は何れも御避暑の爲めに適當の場所なれば未だ建築せざるものは直に着手し又從來の設置にして不適當のものは速に改築するも可なり兎に角に盛暑の時節なぞには時々行幸あらんみとを願はしけれ單に御避暑の一事のみならず春の花には京都の御遊び秋の月には須磨明石の御眺めなど何れも御隨意にして其御用意とても固より御手輕の事とあれば別に叡慮を煩はせらるゝに及ばず而して吾々臣民たるものは玉體に御障あらせられずして萬機の御暇に時々是等の御樂みあるを見聞し奉るときは私に其情を慰するに足るのみならず所在の人民も餘所ながら龍顏を拜して まゝ〳〵聖德の一端なきを感じ奉るみとを得ば其喜び果して如何なる可きや我輩は全國臣民の至情を代表して偏に此事の實行を希望し奉るものなり尙は序ながら一言を陳ずるは外ならず皇太子殿下を始めとして皇族方の御旅行なぞも通常の場合には成る可く簡易を旨とせられて且その事を屬ばして旅に慣れしめ奉るの一事なり前年我國に來遊せられたる露國皇太子の如き又今回の埃國皇姪の如き何れも大國の皇儲たる可き高貴の御身分にてありながら新聞紙の記載する所を見れば親しく些末の事までも視察し或は自身に店頭に立寄りて品物を買入らるゝなぞ其御擧動極めて簡易にして平生の御素養如何を知るに足るものあり我皇太子殿下にも御成長の上は何れ海外御漫遊等の事もあらせらるゝみとならんなれば其養育の任に當る人々は豫じめ此邊の注意なかる可らず而して其素養を成し奉るは自から平生の御教育に在るみとなれども折り〳〵御手輕の御旅行を試みさせらるゝみとなぞ最も肝要なる可しと信ずるが故に我輩は序ながら一言して當局者の注意を乞はんと欲するのみ

雜報

○清國農民と鐵道　北支那鐵道に沿ふたる某地方の農民は洪水に苦しむの餘り其斯くの如くなるは全く鐵道線路の高くして堤防の如くなる爲め水の流れ去るを妨ぐるが故なりとて近頃其線路を破壞せんと計畫せり但し彼等は豫め咎めらるゝみとを知るが故に多勢の徒黨を二手に分ち一手は破壞に從事し一手は刀銃小銃を携へて兵隊の來襲に備へたり既に餘程破壞したる時此事官吏の耳に達しければ地方の鎭臺兵出張して退去せしめんとしたれども彼等は兼て期したるみとゝて更に屈せず用意の得ものを揮ふて官軍に抵抗したるを以て双方共若干の負傷者を生じたり李鴻章伯は報を得て直ちに天津の道臺を取調べの爲め派遣したるが破壞の場所は目下修繕中にて尙は今後の亂暴を防ぐが爲めには北河に船隊を連ねて守衛せしむるよし

○武相クラブの發會式　神奈川縣の自由黨員が組織せし武相クラブの發會式は鈴本、長谷川氏等の拘留の爲め延引せしが同氏等無罪となりしを以て近日の中に公道クラブに於て發會式を擧行する筈にて當日は花火數十本を打揚げ且鈴本氏等の爲め祝宴を開く由

○町村長四十一名の書記官訪問　石川縣能美郡の各町村長四十一名は打揃ひて去十九日出縣の上縣廳に出頭し書記官に面會して曩に金澤市長たりし稻垣義方氏を能美郡長に轉任したる理由を質問し交迭方を請求したるよし

○愛知縣民の延納殘額　いよ〳〵延納殘額はいよ〳〵多くして其中にも愛知縣は一番來水害多きよりしが爾來水害多きより同縣東三河の人民は日縣廳に出頭したる者多く其數は一日に千人に達したる旨を嘆願したるよし

○左團次の新戲　同座は出せし趣にて其中にては「相馬內裏」を最好評よし

○深野座　同座は新盛座の改築成り目下修繕中にて來月早々開館の筈なり

○新盛座　の改築成り目下修繕中にて來月早々開館の筈なり

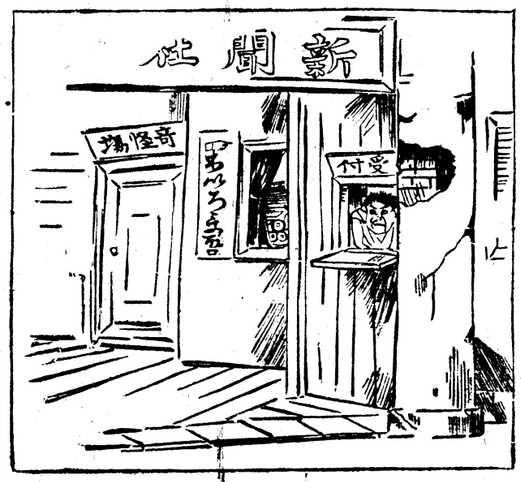
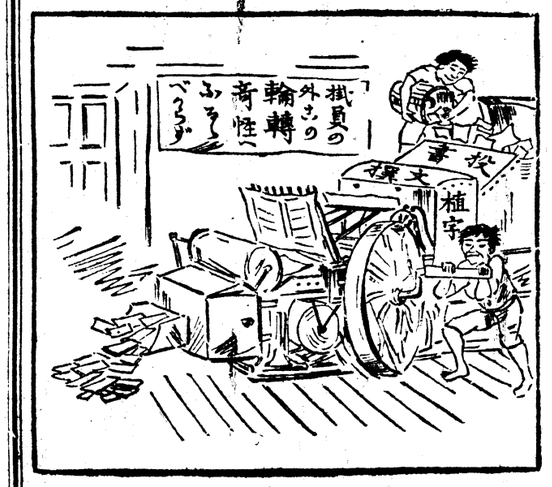
○友樂館　の新戲　踊り圓朝、燕枝の如く諸般演藝の竊なりと云へば

○落語演劇　は開水と云へる

○慈善演劇　を打上げ次第を以て三遊派の言役割まで定まり位なる此事の遂に此の興行あるやにて見合はせ

○各座に影響　を及ぼし大入場の河屋の仁木と四

○慈善演劇の目的　る深野座の慈善演劇の目的は恩ひの外ドン、ヒキ向ふ五日間の

○更に中幕を　桐座の芝居は

虛言八百世紀の新聞紙